

家畜衛生だより

- 監視伝染病発生状況
- 県内の家畜疾病発生状況
- アフリカ豚熱の侵入防止対策に努めましょう
- 定期報告書の提出をお願いします！
- 第 49 回海外家畜悪性伝染病防疫演習（高病原性鳥インフルエンザ）を開催
- アフリカ豚熱（ASF）防疫演習を実施しました（野生イノシシ対応）
- がんばる愛媛の畜産
 - ・第 16 回全日本ホルスタイン共進会へ出場！
 - ・令和 7 年度愛媛県総合畜産共進会（肉用種牛、肉牛・肉豚の部）の結果
- 畜産研究センター・養鶏研究所の試験研究の取り組み～飼料用とうもろこしの有機肥料利用技術～
- 令和 7 年度の畜産関係表彰
- 飼料価格高騰に対する支援事業を実施します

監視伝染病発生状況

○家畜伝染病発生状況（令和 7 年 8 月～令和 7 年 12 月）

畜種	病名	発生場所	発生月	戸数	頭羽群数
鶏	高病原性鳥インフルエンザ	鳥取県	12月	1	10
		岡山県	12月	1	7

○届出伝染病発生状況（令和 7 年 7 月未掲載～令和 7 年 12 月）

畜種	病名	発生場所	発生月	戸数	頭羽群数	発生場所	発生月	戸数	頭羽群数
牛	牛伝染性リンパ腫	鳥取県	7,9	5	5	島根県	7,9	3	3
		岡山県	7～9	6	26	山口県	7～9	12	15
		広島県	7,8	2	5	徳島県	8,9	2	2
		香川県	7～11	10	11	高知県	7	1	1
		愛媛県	9～11	4	4				
	サルモネラ症	鳥取県	9	1	1				
	ネオスポラ症	愛媛県	11	1	1				
水牛	牛伝染性リンパ腫	香川県	9	1	1				
豚	豚丹毒	広島県	7	1	4	徳島県	8	1	1
		香川県	7～11	1	8	高知県	7～9	3	3
		愛媛県	12	1	1				
鶏	鶏伝染性気管支炎	広島県	7	1	2				
	伝染性ファブリキウス嚢病	岡山県	7,8	2	7				
	ロイコチトゾーン症	岡山県	8	1	6				
蜜蜂	アカリンドニ症	愛媛県	9	1	1				
犬	レプトスピラ症	愛媛県	8～10	3	3	高知県	9	1	1

県内の家畜疾病発生状況

(令和 7 年 7 月末掲載分～令和 7 年 12 月)

【ネオスポラ症】【届出伝染病】

発生管内	発生月	畜種	月齢	戸数	頭数	主な症状
東予	7 月	乳用牛	0	1	1	起立不能
【対策】 ○野生動物の侵入防止対策 ○水平感染の防止（胎盤の適切な処理等）						

【牛伝染性リンパ腫】【届出伝染病】

発生管内	発生月	畜種	月齢	戸数	頭数	主な症状
南予	8 月	肉用牛	16	1	1	体表リンパ節・腹腔内リンパ節腫大、貧血
	9 月	肉用牛	8	1	1	
		乳用牛	34	1	1	
	11 月	乳用牛	62	1	1	
【対策】 ○農場内の定期検査と抗体陽性牛の隔離・早期更新 ○吸血昆虫対策 ○凍結や加熱処理を行った初乳の給与 ○牛舎周囲の除草及び消毒の徹底						

【サルモネラ症（牛）】

発生管内	発生月	畜種	月齢	戸数	頭数	主な症状
中予	8 月	乳用牛	44～107	1	35	下痢、発熱
【対策】 ○畜舎消毒の徹底 ○有効薬剤の投与 ○発症牛の早期隔離						

【牛ロタウイルス病】

発生管内	発生月	畜種	月齢	戸数	頭数	主な症状
東予	9 月	乳用牛	0～1	1	4	水様性下痢
【対策】 ○畜舎消毒の徹底 ○発症牛の早期隔離 ○初乳の的確な給与 ○ワクチン接種						

【牛パストツレラ症】

発生管内	発生月	畜種	月齢	戸数	頭数	主な症状
東予	9 月	肉用牛	13	1	1	呼吸器症状
【対策】 ○飼養環境の改善 ○ストレスの低減 ○有効薬剤の投与						

【牛伝染性角結膜炎】

発生管内	発生月	畜種	月齢	戸数	頭数	主な症状
南予	7 月	乳用牛	4	1	2	流涙、目脂、角膜混濁
【対策】 ○畜舎消毒の徹底 ○飼養環境の改善						

【牛パストツレラ症・牛マイコプラズマ肺炎の混合感染症】

発生管内	発生月	畜種	月齢	戸数	頭数	主な症状
南予	9 月	肉用牛	6, 8, 14	2	3	発咳、発熱、呼吸数増加、食欲不振
【対策】 ○畜舎消毒の徹底 ○飼養環境の改善 ○ストレスの低減						

【牛RSウイルス病・牛マイコプラズマ肺炎の混合感染症】

発生管内	発生月	畜種	月齢	戸数	頭数	主な症状
南予	11月	肉用牛	6	1	1	咳、呼吸数増加、発熱
【対策】 ○飼養管理の改善 ○飼養環境の改善 ○ストレスの低減						

【牛コクシジウム病】

発生管内	発生月	畜種	月齢	戸数	頭数	主な症状
中予	12月	乳用牛	1	1	1	水様性下痢
【対策】 ○畜舎消毒の徹底 ○抗コクシジウム剤の投与						

【豚丹毒】【届出伝染病】

発生管内	発生月	畜種	日齢	戸数	頭数	主な症状
中予	12月	豚	281	1	1	跛行、死亡
【対策】 ○畜舎消毒の徹底 ○ワクチン接種 ○有効薬剤の投与						

【豚増殖性腸炎】

発生管内	発生月	畜種	日齢	戸数	頭数	主な症状
南予	8月	豚	154	1	1	タール様血便、食欲不振
中予	9月	豚	369	1	1	タール様便
【対策】 ○畜舎消毒の徹底 ○有効薬剤の投与 ○ワクチン接種						

【浮腫病】

発生管内	発生月	畜種	日齢	戸数	頭数	主な症状
中予	9月	豚	40	1	20	神経症状（遊泳運動）、虚弱、死亡
【対策】 ○畜舎消毒の徹底 ○有効薬剤の投与 ○ストレスの軽減						

【豚胸膜肺炎】

発生管内	発生月	畜種	日齢	戸数	頭数	主な症状
東予	10月	豚	67	1	4	呼吸器症状、突然死
【対策】 ○飼養環境の改善 ○ストレスの低減 ○ワクチン接種						

【豚パストツレラ症・豚トゥルエペレラ・ピオゲネス感染症の混合感染症】

発生管内	発生月	畜種	日齢	戸数	頭数	主な症状
南予	11月	豚	171	1	1	発育不良、食欲不振、膿瘍形成
【対策】 ○飼養管理の改善 ○ストレスの低減 ○畜舎消毒の徹底						

【鶏コクシジウム病】

発生管内	発生月	畜種	日齢	戸数	羽数	主な症状
東予	10月	肉用鶏	26	1	20	死亡羽数増加
【対策】 ○畜舎消毒の徹底 ○抗コクシジウム剤の投与						

【アカリダニ症】【届出伝染病】

発生管内	発生月	畜種	戸数	群数	主な症状
中予	9月	ニホンミツバチ	1	1	飛翔不能蜂の増加、死亡数増加
【対策】 ○巣箱の清掃や交換 ○巣板・蜂具の消毒の徹底					

アフリカ豚熱の侵入防止対策に努めましょう

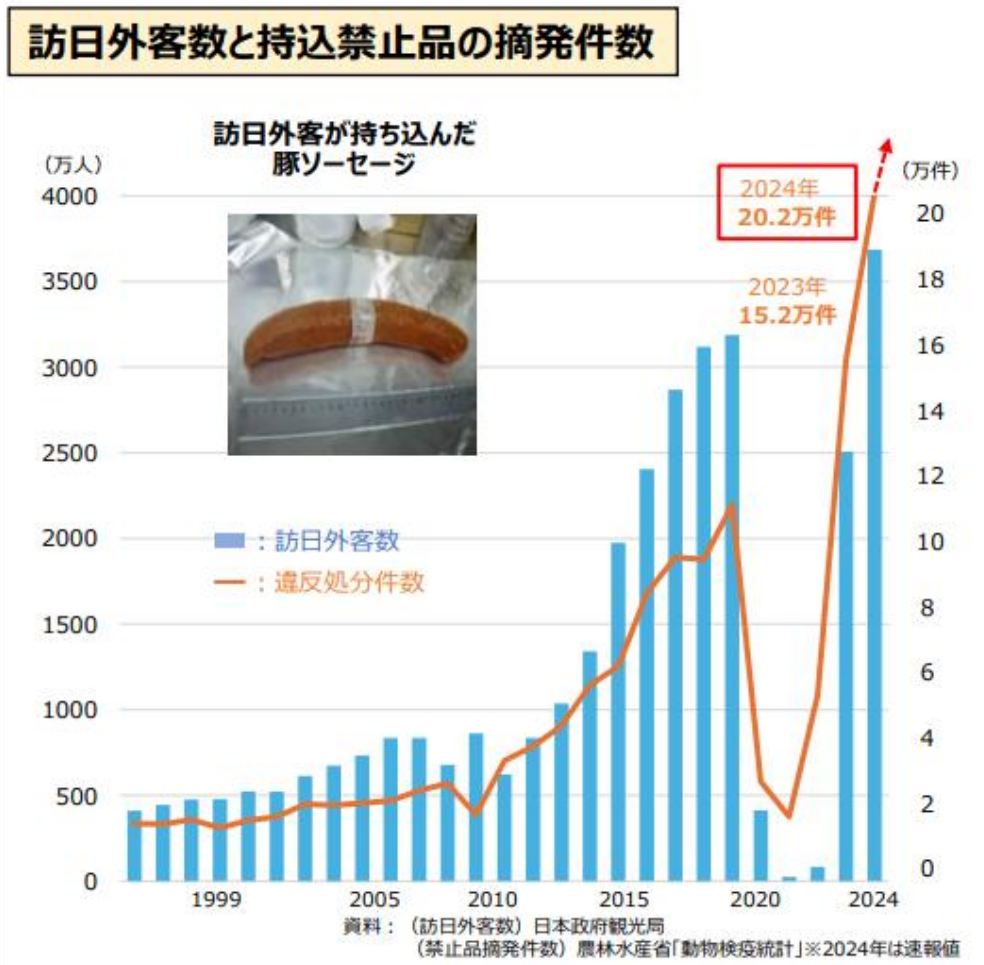
令和 7 年 10 月 21 日に台湾の養豚場でアフリカ豚熱（ASF）が発生し、東アジア地域における本病未発生国は日本のみになりました。

台湾の発生農場では、加熱不十分の食品残渣が給餌されていたことが明らかとなり、このことを受けて、台湾では令和 8 年までに食品残渣給餌について全面的に禁止する取組が始まっています。

なお、令和 8 年までは移行期間となるため、一定の衛生条件を満たしたものについては給餌可能としています。

日本では、海外からの肉製品の持込防止等の水際対策が空海港において実施されていますが、以下の図に示すとおり訪日人口に比例して持込禁止品の摘発件数が増加しています。このため、国内への ASF ウイルスの侵入リスクは高い状況です。

ASF は現在国内で発生がある豚熱と異なり有効なワクチンがないことから、野生動物侵入防止対策や車両消毒等の飼養衛生管理基準の徹底が一番の対策となりますので、引き続き飼養衛生管理基準の遵守に努めていただきますようお願いいたします。



定期報告書の提出をお願いします！

家畜伝染病の発生予防や発生時の迅速なまん延防止を図るため、家畜・家きんの所有者は毎年、所有している農場ごとに飼養頭羽数や衛生管理の状況等について、県に報告することが義務付けられています（家畜伝染病予防法第 12 条の 4）。

提出する書類や期限は家畜・家きんの種類や飼養頭羽数によって異なります。

なお、家畜保健衛生所に郵送やメール等で提出する従来の方法に加え、農林水産省共通申請サービス（eMAFF）による電子申請も可能になりましたので、ご活用ください。

【報告が必要な家畜・家きんの種類および報告〆切】

	家畜・家きんの種類	報告〆切	報告の基準日
家畜	牛、水牛、馬、鹿、めん羊、山羊、豚、いのしし	令和 8 年 4 月 15 日	令和 8 年 2 月 1 日 時点の飼養状況
家きん	鶏、うずら、あひる（アイガモ含む）、きじ、ほろほろ鳥、七面鳥、だちょう、エミュー	令和 8 年 6 月 15 日	

【提出物】

1 定期報告書

- (1) 基本情報（所有者、飼養衛生管理者、飼養頭羽数等）
※飼養衛生管理者が複数人いる場合は全員分の記載が必要です。
- (2) 飼養衛生管理基準の遵守状況及び遵守するための措置の実施状況

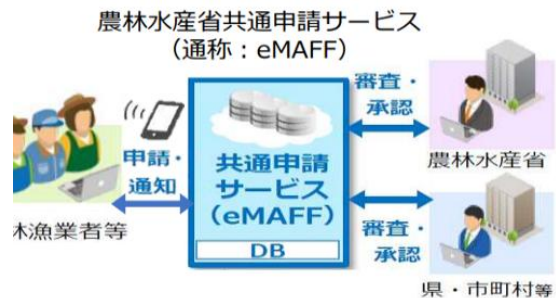
2 飼養衛生管理基準に関する添付書類

- (1) 農場の平面図（衛生管理区域、消毒設備、立て看板等）
- (2) 埋却用地の詳細（埋却用地の確保状況）
- (3) 家畜の飼養密度の詳細（家畜の種類ごとに〇m²/頭（羽））
- (4) 農場ごとに作成する飼養衛生管理マニュアル
※飼養衛生管理マニュアルは、一度作成した後も、農場や従業員等の状況の変化を踏まえて定期的に見直し、更新し続けることが重要です。
- (5) 特定症状を確認した場合の家畜保健衛生所へ通報することを規定したものの写し

不明な点がある場合や、書類を紛失した際は早めに管轄の家畜保健衛生所に相談し、期限内に提出するようお願いいたします！

■農林水産省共通申請サービス

（eMAFF）による電子申請には eMAFF ID の取得が必要です。2 次元コード先の説明に従って取得手続きをお願いいたします。



第 49 回海外家畜悪性伝染病防疫演習 (高病原性鳥インフルエンザ)を開催

本県では、豚熱、高病原性鳥インフルエンザ、口蹄疫などの家畜伝染病の発生に備え、関係者の防疫意識の向上等を目的に防疫演習を毎年開催しています。

今年度は四国中央市での高病原性鳥インフルエンザの発生を想定し、防疫措置の基本となる作業の訓練を実施しました。

[開催日] 令和 7 年 10 月 30 日 (木)

[開催場所] 四国中央市土居文化会館 (スライド説明、現地防疫対策連絡会議)
四国中央市農村環境改善センター (集合施設)
やまじ風公園 (実働演習会場)

[参加者] 県、市町、畜産団体、協定締結団体の関係者など 約 190 名

[演習内容]

午前中、発生時の防疫対応のスライド説明を行うとともに、現地防疫対策連絡会議を開催しました。

午後からは防疫従事者が搬送バスで集合施設に移動し、作業内容の説明と健康調査を実施後、防疫服を着用して、バスで実働演習会場へ移動しました。実働演習会場では、生鶏を使用した模擬鶏舎での捕鳥、模擬鶏を用いた炭酸ガスによる殺処分のほか、汚染物品の搬出、消毒ポイントでの車両消毒の手順を確認しました。

四国中央市での発生を想定した演習は今回が初めてであり、関係者及び関係機関と防疫意識の共有を図ることができました。



作業前の防疫服着衣



捕鳥



炭酸ガスによる殺処分



汚染物品の搬出

アフリカ豚熱(ASF)防疫演習を実施しました (野生イノシシ対応)

ASFは国内未発生の家畜伝染病ですが、万が一、発生した場合には養豚業にとどまらず、地域経済にも甚大な影響を及ぼします。また、野生イノシシ群で感染拡大した場合には、清浄化が極めて困難となり、防疫対策上の大きな脅威となります。今回、山間部において野生イノシシの死体から本病ウイルスが確認された想定の下、愛媛県で初となる初動対応訓練を実施しました。これにより関係機関との防疫作業の連携及び対応方法の確認を行いました。

〔開催日〕令和7年10月10日(金)

〔開催場所〕農林水産研究所林業研究センター(久万高原町)

〔参加者〕県、市町、一般社団法人愛媛県猟友会、森林組合など 計93名

〔演習内容〕1. 野生イノシシでのASF防疫対応訓練

-積極的死体捜索・死体対応

2. 野生イノシシの散逸・侵入防止措置訓練

-防護柵・草刈り等による緩衝地帯(バッファゾーン)設置



死亡イノシシ(模擬)の搬出



死体の埋却



埋却場所周囲に電気柵設置
(野生動物による掘り起こし対策)

がんばる愛媛の畜産

第16回全日本ホルスタイン共進会へ出場!

「第16回全日本ホルスタイン共進会」が、令和7年10月25(土)～26日(日)の2日間北海道勇払郡安平町で10年ぶりに開催され、39都道府県から386頭が20部門においてその体形や資質を競い合いました。本県からは4頭の代表牛が出品され、酪農の本場である北の大地において、日頃の飼養技術と改良の成果を存分に披露しました。また、大会では、次世代の育成に重点が置かれ、牛の見方・引き方スクールやリードマンコンテストが実施されました。本県からは野村高等学校が出場し、全国の舞台上で技術の研鑽に励むとともに、次代を担う若者らしい熱意を見せてくれました。



【本県出品牛及び出品者】

・GHS クレスタ アイオーン ハナマル: 野村高等学校

・ウイナー ヒンペル デルタラムダ アンデ付付: 石山 雄紀

・ラブフレ リンセス ホリス リーナ: 下岡 優

・レットリボン キャンデイ デルタヘギー: 楠 亮

がんばる愛媛の畜産

令和 7 年度愛媛県総合畜産共進会(肉用種種牛、肉牛・肉豚の部)の結果

【肉用種種牛の部】

11 月 6 日に西予市の野村畜産総合振興センターで、「令和 7 年度愛媛県総合畜産共進会(肉用種種牛の部)」が開催され、月齢ごとに 4 部門に分かれ、改良成果を競いました。審査の結果、各部門で以下の出品牛が優等賞首席を受賞するとともに、西予市の平井正人氏出品牛(えめ号)が農林水産大臣賞に輝きました。

(敬称略)

部 門	名 号	出 品 者	住 所 地	表 彰
若雌第 1 区 (14 ヶ月齢未満)	まなきよこ	池田 一成	愛南町	
若雌第 2 区 (14~17 ヶ月齢未満)	かな	藤原 正勝	西条市	畜産局長賞
若雌第 3 区 (17 ヶ月~24 ヶ月未満)	とらこ	岡山 圭太	西予市	中国四国農政局長賞
経産牛	えめ	平井 正人	西予市	農林水産大臣賞

【肉牛、肉豚、交雑種・乳用種の部】

12 月 6 日に大洲市の JA えひめアイパックス株式会社で「令和 7 年度愛媛県総合畜産共進会(肉牛、肉豚、交雑種・乳用種の部)」が開催され、県内各地から肉質の優れた枝肉が集まり、序列を競いました。審査の結果、以下の出品者が優等賞首席を受賞するとともに、農林水産大臣賞が授与されました。

(敬称略)

部 門	出 品 者	住 所 地	表 彰
肉 牛	堀内 博	西予市	農林水産大臣賞
肉 豚	有限会社菊間仙高牧場	今治市	農林水産大臣賞
交雑種・乳用種	堀内 博	西予市	



(左) 肉用種種牛の部で農林水産大臣賞を受賞した平井正人氏とえめ号
(右) 肉牛の部で農林水産大臣賞を受賞した堀内博氏出品の枝肉

畜産研究センター・養鶏研究所の試験研究の取組み ～飼料用とうもろこしの有機肥料利用技術～

飼料用とうもろこしは、自給飼料の中でも栄養収量（TDN 収量）が高い代表的な飼料作物ですが、近年は化成肥料価格の高騰や線状降水帯等の豪雨による湿害リスクの増大等、栽培に関する問題が生じています。近年、化成肥料の代替として安価な有機肥料が注目されています。特に堆肥ペレットは、化成肥料と同様に散布機で散布できる代替資材として有望とされていますが、速効性の化成肥料とは肥効性が違うため、代替利用には施肥方法を検討する必要があります。また、湿害対策には、従来から化成肥料の追肥が有効ですが、堆肥ペレットでは追肥の湿害軽減効果は明らかになっていません。



写真1 鶏糞堆肥ペレット

そこで、緩効性の堆肥ペレットに速効性の尿素液肥を併用する栽培試験を実施し、生育性やTDN 収量等を調査するとともに、生育初期に冠水したとうもろこしに堆肥ペレットを追肥し、湿害軽減効果を検討しました。今回使用した堆肥ペレットは、鶏糞堆肥を用いました（写真1）。

【1】堆肥ペレット代替利用の検討

化成肥料を用いた慣行栽培に対し、窒素成分を同量に調整した鶏糞堆肥ペレットと尿素液肥を併用する試験区でTDN 収量を調査しました。その結果、10aあたりのTDN 収量は慣行区の1,419kgに対し、鶏糞堆肥ペレットと3%尿素液肥の試験区では、1,443kgとなりました。

【2】堆肥ペレット追肥による湿害軽減効果

とうもろこし5～6葉期に2日間の冠水処理（300L/日）で湿害を再現した後（写真2）、化成肥料及び鶏糞堆肥ペレットを窒素成分で10aあたり5kgとなるように追肥して、TDN 収量を比較しました。その結果、冠水処理をしないTDN 収量と比較し、冠水後無処理は18.5%減収しましたが、化成肥料追肥は2.7%、鶏糞堆肥ペレット追肥は4.7%の減収にとどまりました（図1）。

以上のことから、化成肥料の代替資材に鶏糞堆肥ペレットを利用する場合は、速効性の尿素液肥を併用することで、化成肥料と同等の施用効果が示されました。また、冠水被害の減収対策においても、鶏糞堆肥ペレットの追肥は、化成肥料と同等の湿害軽減効果が明らかになりました。

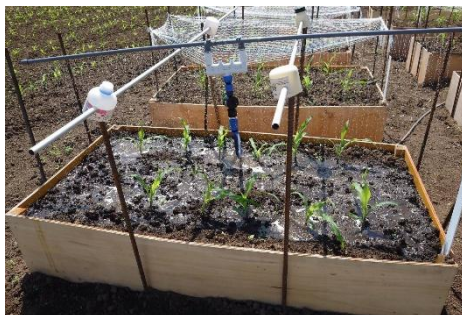


写真2 冠水処理の様子

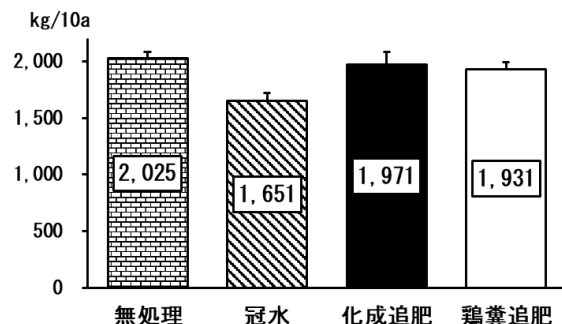


図1 追肥による湿害軽減効果（TDN 収量）

令和 7 年度の畜産関係表彰

愛媛県政発足記念日知事表彰

氏名	畜種	住所地
竹内 日出男	養豚	八幡浜市

表彰日：令和 8 年 2 月 20 日

優良家畜人工授精師知事表彰

氏名	住所地
善家 常喜	宇和島市

表彰日：令和 7 年 7 月 31 日

畜産功労者知事表彰

氏名	畜種	住所地
兵頭 伸哉	酪農	西予市
渡辺 敏彦	酪農	鬼北町

表彰日：令和 7 年 12 月 6 日

飼料価格高騰に対する支援事業を実施します

県では、令和 7 年度 12 月補正予算により、配合飼料や粗飼料の価格高騰が継続する厳しい経営環境に対応するため国産飼料の利用拡大や生産性の向上等に意欲的に取り組む畜産農家を支援します。

1 畜産配合飼料価格高騰対策支援事業（配合飼料対策）

【事業主体】 県内畜産農家が加入する基金団体

【対象者】 配合飼料価格安定制度加入者

【取組要件】 令和 8 年度中の経営の継続、配合飼料価格安定制度への継続加入、生産性の向上や生産コスト削減の取組の実施

【支援内容】 生産性向上等への取組推進費（※）を交付します。

※配合飼料価格安定制度の R7 年度契約数量×400 円／トン

2 酪農・肉用牛農家生産支援事業（粗飼料対策）

【事業主体】 団体（県酪連等）

【対象者】 酪農家、肉用牛農家

【取組要件】 令和 8 年度中の経営の継続、粗飼料自給率の向上や生産コスト削減の取組の実施

【支援内容】 粗飼料価格高騰に対する支援金（※）を交付します

※搾乳牛：30,800 円/頭、肉用繁殖牛：15,600 円/頭、

肉用肥育牛：10,400 円/頭

事業により、申請時期や申請方法が異なります。
事業内容の詳細は、家畜保健衛生所にお問合せください。

“ご相談、お問い合わせは、こちらへ”

愛媛県畜産課

Tel (089) 912-2575 Fax (089) 912-2574

東予家畜保健衛生所

Tel (0897) 57-9122 Fax (0897) 57-9155

中予家畜保健衛生所

Tel (089) 990-1333 Fax (089) 955-1234

南予家畜保健衛生所

Tel (0894) 62-0026 Fax (0894) 62-1120

家畜病性鑑定所

Tel (089) 990-1341 Fax (089) 955-1234

家畜病性鑑定所南予分室

Tel (0894) 62-2270 Fax (0894) 62-1120

畜産研究センター

Tel (0894) 72-0064 Fax (0894) 72-0065

畜産研究センター養鶏研究所

Tel (0898) 66-5004 Fax (0898) 66-5093